Research Studio 2021 powered by SPARK BootCamp 開催報告

日程　7 月 9 日（金）、10 日（土）/　場所　オンライン開催（Zoom）

Research Studio 2021 選抜プログラムの最初のイベントとして、7 月 9 日（金）、10 日（土）の 2 日間にわたって Research Studio 2021 BootCamp を筑波大学 T-CReDO 主催でオンライン開催した。

参加チームは選考会で選抜された以下の 5 チームで、各分野の技術シーズを持つスタートアップもしくはスタートアップ検討チームである。

Syrinx「失われた声を取り戻すデバイス「Syrinx」の開発」
atDose「超微量投薬を実現するアットドウスコア」
Medigear「クスリを使わずナノ微粒子でがんを治す」
ALAN「在宅症状を可視化するパーキンソン病診断補助アプリの開発」
Restore Vision「視覚再生遺伝子治療薬開発」

それぞれのピッチに対して、経験豊富な各分野のメンター陣から濃厚なコメントを頂いた。2 日間にわたり Target Product Profile をブラッシュアップし、現状の開発課題を明確化し、また、本体プログラム開始にあたっての目標設定も行い、各チームのフェーズは異なるものの、この 2 日間だけでも新たな気づきを得ることができた。
オンライン開催も 2 年目となり、プログラム運営としても習熟しており、深みのあるディスカッションをすることができた。

プログラム 1 日目は、荒川機構長からの開会挨拶の後に、小柳先生から「Research Studio 概要、Boot Camp の位置付け」についての説明があり、プレオープンした Research Studio 特設サイトのお披露目もあった。その後、スタートアップストーリーとして Biomedical Solutions 代表取締役の正林氏から「クラスⅣ：脳血管血栓除去デバイス"Tron FX"の開発事例」のご発表をいただいた。上市まで至った製品の開発におけるご自身の経験と経験から得られた知見についてのアントレプレナーシップに関する内容であり、参加チームにとっても非常に参考になる内容となっていた。町野先生司会のもと、各チームのシーズ発表（発表 10 分、Q&A20 分）が行われ、各チームはメンター陣からの濃厚なフィードバックが行われた。続いて、町野先生より「グループワークの進め方」の説明のあと、各チームブレイクアウトルームで Target Product Profile についてのグループワークが行われた。最後に小柳先生からの「翌日の説明・終了挨拶」で 1 日目のプログラムが終了となった。

プログラム 2 日目は、スタンフォード大学池野先生からの開会挨拶の後に、町野先生から「2日目の進め方」についての説明があった。各チームブレイクアウトルームで T-CReDO 作成の開発課題チェックリストに基づいて、「開発課題の確認」について 50 分間のグループワークが行われた。その後各チームがメンターからのフィードバックを踏まえて発表準備・課題整理をしてもらっている間に、メンター・チューターは Extra チームシーズ発表（発表 10 分、Q&A20 分）として、株式会社 Surg storage からデータサイエンス関連のシーズ発表があり、メンターからのフィードバックをもらった。

2 日間にわたるプログラムの成果発表として、各チームから Target Product Profile（仮）、開発課題、プログラム目標の発表（発表 10 分、Q&A 20 分）が行われた。各チームの状況は様々であるが、この 2 日間だけでも成長が感じられるチームもあり、またそれぞれのチームが今後の課題を明確にすることができた。

町野先生、古屋先生から「メインプログラムの進め方」、松本先生から閉会挨拶をいただき 2 日間にわたる全プログラムが終了となった。7/21（水）から選抜プログラムのグループワーク・メンタリングが開始される。

ALAN
黒田 垂歩
Surg storage

アットドウス株式会社
atDose
事務局：T-CReD...